

# 富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ  
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布しています。

## 難聴者支援、スーパーバイズ、意思疎通支援モデル要綱などを学びました 全聴情協コミュニケーション支援担当者研修会

7月16日～18日、全国聴覚障害者情報提供施設協議会（全聴情協）の「コミュニケーション支援担当者研修会」にセンターから山崎清之が参加しました。京都市聴覚言語障害センターを会場に、35の施設・機関から47人の参加がありました。

1日目は「難聴者が難聴者になるために」をテーマに、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の高岡 正理事長（当時）の講義。難聴者福祉の現状と課題について、権利条約・総合支援法などの法律や制度、要約筆記事業の変遷・背景を話されました。ていねいで分かりやすいお話でした。次に、ご自身が難聴者である臨床心理士の若狭妙子さんの「難聴者として育った環境・体験から」。自分の体験をもとに難聴者の状況・心理を話されました。軽中度であるが故に逆に理解されない小中学校・思春期の、時に声を詰まらせながらのお話は心に響き、難聴の方たちへの姿勢を正された思いでした。その後は、兵庫県と京都市のセンターから難聴者に対する取り組みの報告がありました。

2日目は「スーパーバイズ」をテーマに、大谷大学の山下憲昭教授からの講義の後、5～6人のグループで提示された三つの事例から一つを選び、スーパーバイザーとしての対応を討議。発表の後、あらためて山下先生から講評を受けました。山下先生は手話通訳等に関わってはおられません、対人援助・実践を中心にした社会福祉が専門で、迫力ある話し方でした。私たちが接する聴覚障害の方たちの顔は「地域で暮らす『人』」としてのほんの一面でしかないこと、だからこそ「『生活』支援」の知識と視点が大切だということ学びました。

3日目は「意思疎通支援事業の見直し」をテーマに、全日本ろうあ連盟の中橋道紀情報・コミュニケーション委員会委員長の講義。意思疎通支援事業とモデル要綱をもとに、背景や連盟の考え方・課題といったお話で、登録更新・派遣範囲・役割といった具体的なことの全国状況・課題なども整理され、分かりやすい内容でした。

全国で同じような悩みをかかえ奮闘する仲間たちとの濃い三日間。祇園祭と重なっていたのですが見られなかったのが心残りでした。

### センター利用の実績 7月21日～8月20日

- 来所者 合計約392名  
聴障者約168名、健聴者約224名
- コミュニケーション支援コーディネート72件
- ライブラリー貸出 5件14本
- 相談対応8件 ●部屋貸出36件

★センター運営募金を  
お寄せ下さい★

郵便振替口座；

00790 - 0 - 93002

名称；富山県聴覚障害者

センターを支える会